



弁護士が挑む、 宇宙天気防災と社会の備え

会員 西田 美樹 (54期)

1 夢は宇宙飛行士

子どものころの夢は宇宙飛行士であった。しかし応募条件に「身長158センチ以上」という制限があり、その夢は絶たれたかのように見えた。それでも宇宙への憧れは消えなかった。天体観測に熱中し、宇宙開発の動向を追い、さらには宇宙法の勉強にも手を伸ばした。

2 出会い

夢というものは不思議な力を持っている。持ち続ければ形を変えて向こうから近づいてくることがある。私の場合は、ABLabという宇宙ビジネスのプラットフォームを知り、参加したことが転機となった。そこで出会ったのが「宇宙天気」である。

3 宇宙天気とは

宇宙天気？ 宇宙にも天気があるのか。多くの人がそう感じるだろう。宇宙天気とは、太陽から吹き出すプラズマや放射線が地球周辺に及ぼす影響のことである。太陽フレアやコロナ質量放出が原因となり、オーロラが現れたり、GPSが「今日はちょっと変だ」と感じられるとき、その背後にあるのも宇宙天気である。

4 新しい災害

宇宙天気は「文明進化型の災害」と呼ばれる。地震や台風と違い、被害は建物や人に直接及ぶのではない。むしろ情報通信、電力、衛星運用といった文明の根幹に影響を及ぼす。総務省は2022年6月、「宇宙天気予報の高度化の在り方に関する検討会報告書」を発表し、巨大な太陽嵐が起これば通信衛星の故障、長時間の停電、航空機の運航停止など社会全体に広がるリスクを指摘した（同報告書別紙1）。

5 法制度の課題

ところが宇宙天気を規定する法律はない。同報告書も、災害が起これば災害対策基本法2条1号の「他の異常な自然現象」に含まれるとし、「宇宙天気のもたらす被害についても同法の対象であると優に認め

ることができる」と記している（同42頁）。だが行政がそれだけで十分に機能するとは限らないことを、弁護士は身にしみて知っている。だからこそ私は宇宙天気を法律に明記し、備えを強化したいと考えている。そのため国会

議員や自治体関係者に説明し、学会や研究会で提言するなど地道なロビー活動を続けている。本年5月には仲間とともに合同会社いばらき宇宙天気研究所を立ち上げ、防災士資格も取得した。法律の枠組みと現場の防災をつなげる活動を広げている。



「宇宙兄弟」コラボ帽子のモデルにも…

6 弁護士の役割

この分野で私が役割を見いだしたのは弁護士としての立場からである。法律は社会の秩序を守る仕組みであり、災害や事故に備える制度設計を担う。宇宙天気でも被害時の責任の所在、リスクへの保険、国際協力の枠組みなどは法律家が関与すべき課題である。

7 伝える意義

さらに、伝えることにも意味がある。宇宙天気は聞き慣れないが、知れば「実は身近なものだった」と気づいてもらえる。私が日々発信している「シームレス天気予報」では、地上の天気と宇宙の天気をつなげて伝えることを心がけている。専門分野を日常用語に置き換えて社会に橋渡しすることこそ、弁護士が果たせる役割の一つだと考えている。

8 結び

子どものころの夢は形を変えて戻ってきた。宇宙と暮らしをつなぐ弁護士という新しい道を歩み始めた。宇宙天気を伝えることは未来の安全を守る営みである。そしてそのために法律家が果たせる役割は決して小さくない。